

# 男女別労働力生命表：昭和55年

石 川 晃

## 1. はじめに

労働力の需給量を示す労働力率は、経済社会の基本的指標として重要な意味をもつ。さらに、その需給バランスは、産業・就業構造全体に大きく関係し、社会制度や家族制度にも影響をおよぼす。とくに、近年の死亡率の低下および出生率の低下によって急速に進む高齢化社会において、年齢構造の変化が労働力の側面にも多くの問題を生じさせてきている。また、高学歴化による若年労働者の減少、中高年齢者の雇用問題・定年時期を考察する上でも基本的な資料の整備が必要と思われる。本稿は、昭和55年労働力生命表を作成し、労働力状態の解析を行なったものである。

労働力生命表は、普通生命表の応用であり、普通生命表の年齢別静止人口  $nL_x$  と実際人口の年齢階級別労働力率  $nW_x$  とを基礎として、労働力への加入、労働力からの死亡と引退による離脱、平均労働力余命などを計算したものである。生命表の理論にそって換言するならば、ある一定期間死亡状況が一定であり、労働力率も一定であるとした場合の労働力移動（加入・離脱）を表わしたものである。逆のいい方をするならば、労働力生命表によって導びかれた労働力移動が一定期間持続した時点の労働力状態（率）を表わしたものであるといえる。標準化理論としてとらえた場合、労働力率を、静止人口を標準人口としたときの諸率であり、標準化法の一つと考えることもできる。

人口問題研究所では、戦前（昭和5年）および戦後（昭和25年以降）については、国勢調査時期のたびに労働力生命表を作成しており、『日本人男子の簡速労働力生命表』と題して発表してきた。今回の労働力生命表は、従来男子のみについてのものであったが、女子についての算出をも試み、さらに諸率算出に用いる基礎データとして、年齢区分は5歳階級によっていたが、各歳別を用い算出を行なった。そのため、今回は、男女の比較や、加齢とともに変化する諸関数を詳細に分析しうることを可能ならしめ、労働力問題の解析に大きく役立つことと思う。なお、労働力生命表の詳細については、河野稔果、『日本人男子の簡速労働力生命表、昭和35年』（人口問題研究所研究資料第165号）、昭和40年9月刊を参照されたい。

## 2. 労働力生命表の作成方法

### (1) 基礎資料

労働力生命表作成には、実際人口の年齢階級別労働力率と、普通生命表の年齢階級別静止人口が必要である。労働力率は、総理府統計局、『昭和55年国勢調査報告 第2巻 基本集計結果(1) その1 全国編』、昭和57年5月刊により、男女年齢各歳別労働力率を計算した。また、静止人口については、人口問題研究所、『第34回簡速静止人口表（生命表）（昭和55年4月1日～56年3月31日）』（研究資料第226号）、昭和56年10月刊による男女年齢各歳別静止人口  $L_x$  を用い、死亡率は、同生命表生年別死亡率  $\bar{q}_x$  を用いた。

### (2) 諸関数の計算

今回の労働力生命表は、根本的には Wolfbein-Wool の労働力生命表の作成方法によって作成したものである。

1) 静止労働力人口の計算

静止労働力人口は、実際人口の年齢別労働力率を、普通生命表の年齢別静止人口を標準とした場合の労働力人口として求める。すなわち、静止人口から生じる労働力人口を静止労働力人口  ${}_nL_{wx}$ 、年齢別静止人口  ${}_nL_x$ 、年齢別労働力率  ${}_nW_x$  とすると、

$${}_nL_{wx} = {}_nL_x \cdot {}_nW_x$$

より求める。

2) 労働力への加入率および労働力からの離脱率の計算

労働力への加入数  ${}_na_x$  は、ある年齢階級からつぎの年齢階級との間に労働力へ加入しながら、死亡により次の年齢階級に達しないものも含めての加入数であり、

$${}_na_x = {}_nL_{wx+n} - {}_nL_{wx} + {}_nL_{wx} \cdot {}_n\bar{q}_x$$

により求める。ただし、加入は労働力率が最高水準に達するまで行なわれることとし、その年齢階級の前まで計算する。すなわち、

$${}_nL_{wx+n} \geq {}_nL_{wx} \cdot (1 - {}_n\bar{q}_x)$$

のときのみ計算を行なう。

労働力への加入率  ${}_nA_x$  は、加入数  ${}_na_x$  をはじめの年齢階級の静止人口で割ったものであり、

$${}_nA_x = {}_na_x / {}_nL_x$$

より計算される。

労働力からの離脱は、加入率と同じく、ある年齢階級からつぎの年齢階級に移行したときに、労働力から離脱する net のものである。また、労働力からの離脱は、死亡によるものと、引退によるものがある。

労働率が最高水準に達するまでの年齢階級では、すなわち

$${}_nL_{wx+n} \geq {}_nL_{wx} \cdot (1 - {}_n\bar{q}_x)$$

のときには、死亡のみによる離脱とみなされ、離脱率  ${}_n\bar{q}_x^*$  は、死亡率  ${}_n\bar{q}_x$  と等しい。よって離脱数  ${}_nS_x$  は

$${}_nS_x = {}_nL_{wx} \cdot {}_n\bar{q}_x$$

となる。その後の年齢階級、または

$${}_nL_{wx+n} < {}_nL_{wx} \cdot (1 - {}_n\bar{q}_x)$$

のときにおける離脱数  ${}_nS_x$  は、

$${}_nS_x = {}_nL_{wx} - {}_nL_{wx+n}$$

であり、離脱率  ${}_n\bar{q}_x^*$  は

$${}_n\bar{q}_x^* = {}_nS_x / {}_nL_{wx}$$

より計算される。

さらに、労働力からの離脱を、死亡によるものと引退によるものとの2つの原因にわけると、死亡による離脱率  ${}_n\bar{q}_x^d$  は、

$${}_n\bar{q}_x^d = {}_n\bar{q}_x \cdot (2 - {}_n\bar{q}_x^*) / (2 - {}_n\bar{q}_x)$$

であり、引退による離脱率  ${}_n\bar{q}_x^r$  は、

$${}_n\bar{q}_x^r = {}_n\bar{q}_x^* - {}_n\bar{q}_x^d$$

によって求める。

3) 平均労働力余命の計算

労働力としての残存数  $l_{wx}$  は、各歳別に求められた静止労働力人口  $L_{wx}$  により

$$l_{wx} = (L_{wx-1} + L_{wx}) / 2$$

より計算する。

あとは、普通生命表と同様に、平均労働力余命  $e_{wx}$  を

$$e_{wx} = \frac{\sum_x^{\infty} L_{wx}}{l_{wx}}$$

によって求める。ただし、若年齢での労働力率は当然低く、静止人口  $L_x$  と労働力率  $W_x$  とをかけて求めた静止労働力人口  $L_{wx}$  は、小さくなってしまふ。その静止労働力人口  $L_{wx}$  をそのまま平均労働力余命の計算に使用した場合、労働力率が最高水準の年齢に達するまで、労働力への加入を除外してしまうことになる。それは意味をなさないものになってしまう。そこで、労働力率が最高水準に達するまでの年齢については、将来労働力率が最高水準に達すると仮定し、最高水準の年齢における労働力率を用いて計算する。さらに女子の労働力率は、最高水準に達した後低下し、再び山を形成するM字曲線を描く。そのため、第1のピークと第2の山との間を直線により補間し、労働力率  $W_x$  を求め、それを用いて計算する。

### 3. 労働力率の推移

男女年齢5歳階級別労働力率の推移をみると（表1参照）、男子では、40年から45年にかけて微増

表1 男女年齢別労働力率の推移 (%)

年 齢	昭和55年	50 年	45 年	40 年 <sup>1)</sup>	35 年 <sup>1)</sup>	30 年 <sup>1)</sup>	25 年 <sup>2)</sup>
男							
総 数	82.1	83.4	84.3	83.3	85.0	85.3	86.4
15 ~ 19	20.3	23.3	36.5	38.6	51.6	54.3	64.3
20 ~ 24	74.7	79.1	83.5	87.1	87.9	88.2	90.5
25 ~ 29	97.6	97.8	98.2	97.9	96.9	96.2	95.5
30 ~ 34	98.6	98.8	98.6	98.5	97.7	97.0	} 97.1
35 ~ 39	98.7	98.7	98.5	98.4	97.7	97.3	
40 ~ 44	98.4	98.4	98.3	98.3	97.6	97.4	} 97.0
45 ~ 49	98.0	98.1	98.1	98.0	97.1	97.0	
50 ~ 54	97.3	97.5	97.3	97.2	96.0	95.5	} 92.4
55 ~ 59	94.0	94.7	94.2	93.8	90.5	91.1	
60 ~ 64	81.5	85.4	85.8	85.2	82.5	82.5	} 65.2
65 歳以上	46.0	49.7	54.4	55.1	54.4	56.5	
女							
総 数	46.9	46.1	50.9	49.8	50.9	50.6	50.2
15 ~ 19	18.8	22.6	35.7	37.6	49.6	50.1	56.7
20 ~ 24	71.1	66.8	70.8	69.7	69.4	68.2	64.0
25 ~ 29	49.4	43.5	45.1	46.5	50.2	51.9	48.3
30 ~ 34	46.5	43.2	47.3	48.0	51.4	49.6	} 50.0
35 ~ 39	55.5	52.8	56.3	58.3	55.1	53.5	
40 ~ 44	61.8	59.7	63.6	62.1	56.8	55.6	} 53.2
45 ~ 49	62.3	61.9	64.6	62.6	56.8	54.5	
50 ~ 54	58.7	58.6	60.9	57.3	51.8	51.4	} 48.2
55 ~ 59	50.7	50.9	53.7	50.1	46.8	45.8	
60 ~ 64	38.8	39.2	43.3	39.4	39.2	38.5	} 27.2
65 歳以上	16.1	15.8	19.6	17.6	21.0	20.7	

各年国勢調査による。率算出に用いた分母人口は労働力状態「不詳」を含んでいる。そのため、労働力生命表に用いた労働力率は、「不詳」分を除いたものを分母人口としたため、かならずしも労働力生命表の労働力率とは一致しない。

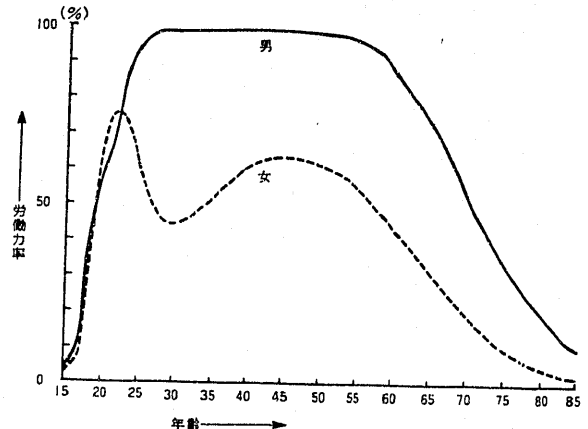
- 1) 1%抽出集計結果。
- 2) 10%抽出集計結果。

した以外一貫して労働力率の低下がみられる。とくに若年齢層における低下が著しい。この年齢層における労働力の低下は、進学率の上昇が大きな原因である。昭和50年と55年を比較してみると、全年齢において低下がみられる。

これに対して女子労働力率についてみると、総数では50%程度で上下しながら推移してきたが、50年以降46%台と低い労働力率になっている。15～19歳年齢層では、男子同様低下傾向が続いてきているが、昭和55年では50年と比べて、20歳以上54歳までは増加がみられる。

つぎに、昭和55年における年齢別労働力率をみると(図1参照)、男子労働力率においては、15歳から25歳まで急上昇し、その後ほぼ99%程度で安定をみせ、50歳を過ぎたころから低下が始まる。女子労働力率の場合、15歳から22歳まで上昇し22歳で約76%に達しピーク値を示す。23歳から低下し29歳で約44%になり再び上昇をみせる。以降なめらかに上昇し、45歳で63%に達しその後低下する。

図1 男女、年齢別労働力率：昭和55年



#### 4. 労働力生命表 結果の説明

昭和55年男女別労働力生命表の結果は、表2および表3のとおりである。その結果をふまえわが国の労働状態を分析し、現在の状況を説明してゆくことにする。

男女年齢5歳階級別労働力生命表(表2)によって、まず男子の労働力についてみると、静止労働力人口は、労働力率では35～39歳年齢層でピークを示すのに対し、30～34歳で最も多くなっている。年齢別に昭和50年と比べると<sup>1)</sup>、15～19歳および20～24歳で減少した以外は、すべての年齢層で増加している。また、静止労働力人口の平均年齢では、昭和25年の41.34歳から徐々に高齢化が進んできており、50年には44.42歳にまでなった。55年は、44.68歳となりさらに高齢となった。

労働力への加入率では、15～19歳が20～24歳になるまでの期間における加入率が最も高い。50年と比べ20～24歳から25～29歳へは高率となったが、他年齢においては低下をみせた。

労働力からの離脱は、死亡によるものと引退によるものがあり、それぞれ加齢とともに高率となってゆく。50年と比べると、死亡によるものは全年齢で減少したが、引退によるものは、40～44歳から60～64歳年齢層において増加し、他の若い年齢と中高年齢で減少がみられた。

平均労働力余命は、15歳時で51.61年となり50年の51.40年に比べ0.21年の伸長がみられた。一般の平均余命との差では、15歳時7.84年でありこれは年々拡大の傾向にある。

つぎに女子の労働力についてみると、労働力率がM字形分布を形成しており、静止労働力人口も同型を示す。静止労働力人口の第1の山は20～24歳で、これは労働力率と同じであるが、第2の山は40～44歳で現われ、労働力率では45～49歳でピークを示すのに対して早くなっている。

女子の労働力への加入率では、15～19歳から20～24歳でピークを示した後、再度30～34歳から35～39歳で加入が始まり40～44歳から45～49歳まで加入が続く。

女子の労働力からの離脱は、死亡によるものは加齢とともに増加するが、引退によるものは20～24

1) 過去の推移(昭和25年～50年)については、石川晃、「日本人男子の簡速労働力生命表：昭和50年」、人口問題研究所、『人口問題研究』、第149号、1979年1月刊行を参照。

表2 労働力生命表(年齢5歳階級別): 昭和55年

年齢階級	静止人口	労働力		労働力への加入率	労働力からの離脱率			平均余命		平均余命と平均労働力余命との差
		率	数		すべての原因による	死亡による	引退による	一般	労働力	
$x$	${}_nL_x$	${}_nW_x(\%)$	${}_nL_{wx}$	${}_nA_x$	${}_n\bar{q}_x^s$	${}_n\bar{q}_x^d$	${}_n\bar{q}_x^r$	$e_x$	$e_{wx}$	$e_x - e_{wx}$
(1) 男										
10~14	493,437	—	—	0.20012	—	—	—	—	—	—
15~19	492,369	20.05	98,744	0.54798	0.00433	0.00433	—	59.45	51.61	7.84
20~24	490,235	75.09	368,124	0.22576	0.00453	0.00453	—	54.66	46.78	7.88
25~29	488,013	97.77	477,132	0.00911	0.00483	0.00483	—	49.90	41.99	7.91
30~34	485,655	98.69	479,272	0.00055	0.00639	0.00639	—	45.11	37.17	7.94
35~39	482,552	98.74	476,476	—	0.01256	0.00990	0.00265	40.34	32.35	7.99
40~44	477,766	98.48	470,493	—	0.02067	0.01635	0.00433	35.63	27.62	8.01
45~49	469,939	98.05	460,766	—	0.03275	0.02571	0.00704	31.05	23.03	8.02
50~54	457,816	97.35	445,678	—	0.07117	0.03755	0.03362	26.65	18.57	8.08
55~59	440,332	94.01	413,959	—	0.18216	0.05413	0.12803	22.43	14.32	8.11
60~64	414,866	81.60	338,551	—	0.27628	0.08568	0.19060	18.39	10.83	7.56
65~69	375,577	65.24	245,016	—	0.41845	0.13754	0.28091	14.61	8.30	6.31
70~74	315,478	45.17	142,489	—	0.51510	0.21552	0.29958	11.29	6.50	4.79
75~79	235,508	29.34	69,093	—	0.61711	0.32286	0.29425	8.50	5.22	3.28
80~84	146,355	18.08	26,455	—	0.65085	0.31425	0.33660	6.21	4.14	2.07
85~	91,056	10.14	9,237	—	—	—	—	4.40	3.40	1.00
(2) 女										
10~14	494,987	—	—	0.18780	—	—	—	—	—	—
15~19	494,511	18.80	92,960	0.52371	0.00159	0.00159	—	64.74	44.11	20.63
20~24	493,725	71.25	351,791	—	0.30620	0.00175	0.30445	59.82	39.17	20.65
25~29	492,708	49.54	244,073	—	0.06264	0.00259	0.06004	54.93	34.89	20.04
30~34	491,390	46.56	228,785	0.09035	0.00369	0.00369	—	50.05	31.22	18.83
35~39	489,578	55.63	272,341	0.06248	0.00543	0.00543	—	45.20	27.46	17.74
40~44	486,922	61.91	301,450	0.00445	0.00841	0.00841	—	40.38	23.61	16.77
45~49	482,825	62.36	301,083	—	0.06912	0.01262	0.05650	35.64	19.68	15.96
50~54	476,556	58.81	280,271	—	0.15384	0.01827	0.13558	30.98	15.51	15.47
55~59	467,218	50.76	237,153	—	0.25616	0.02692	0.22924	26.44	11.94	14.50
60~64	453,011	38.94	176,405	—	0.34820	0.04337	0.30483	22.03	9.44	12.59
65~69	429,831	26.75	114,980	—	0.47320	0.07445	0.39875	17.79	7.42	10.37
70~74	389,863	15.54	60,572	—	0.54606	0.12870	0.41737	13.90	6.05	7.85
75~79	326,456	8.42	27,496	—	0.62189	0.21635	0.40554	10.47	5.14	5.33
80~84	237,862	4.37	10,396	—	0.61360	0.13942	0.47417	7.56	4.26	3.30
85~	194,392	2.07	4,017	—	—	—	—	5.20	3.73	1.47

表3 労働力生命表（年齢各歳別）：昭和55年

(1) 男

年齢	静止人口	労働力		労働力への加入率	労働力からの離脱率			平均余命		平均余命と平均労働力余命との差
		率	数		すべての原因による	死亡による	引退による	一般	労働力	
$x$	$L_x$	$W_x(\%)$	$L_{wx}$	$A_x$	$\bar{q}_x^s$	$\bar{q}_x^d$	$\bar{q}_x^r$	$e_x$	$e_{wx}$	$e_x - e_{wx}$
14	98,643	—	—	0.02869	—	—	—	—	—	—
15	98,607	2.87	2,830	0.04467	0.00054	0.00054	—	59.45	51.61	7.84
16	98,554	7.34	7,233	0.02908	0.00070	0.00070	—	58.48	50.63	7.85
17	98,485	10.25	10,094	0.21587	0.00081	0.00081	—	57.51	49.66	7.85
18	98,405	31.85	31,346	0.20059	0.00088	0.00088	—	56.56	48.70	7.86
19	98,318	51.93	51,058	0.08093	0.00092	0.00092	—	55.61	47.74	7.87
20	98,228	60.03	58,967	0.05149	0.00093	0.00093	—	54.66	46.78	7.88
21	98,137	65.18	63,971	0.08356	0.00093	0.00093	—	53.71	45.83	7.88
22	98,046	73.55	72,112	0.10952	0.00091	0.00091	—	52.75	44.87	7.88
23	97,957	84.51	82,784	0.08156	0.00092	0.00092	—	51.80	43.91	7.89
24	97,867	92.67	90,697	0.03674	0.00090	0.00090	—	50.85	42.95	7.90
25	97,779	96.35	94,211	0.01161	0.00090	0.00090	—	49.90	41.99	7.91
26	97,691	97.51	95,261	0.00483	0.00090	0.00090	—	48.94	41.03	7.91
27	97,603	98.00	95,647	0.00288	0.00090	0.00090	—	47.98	40.06	7.92
28	97,515	98.28	95,842	0.00187	0.00092	0.00092	—	47.03	39.10	7.93
29	97,425	98.47	95,935	0.00109	0.00094	0.00094	—	46.07	38.13	7.94
30	97,333	98.58	95,951	0.00067	0.00099	0.00099	—	45.11	37.17	7.94
31	97,237	98.65	95,921	0.00064	0.00104	0.00104	—	44.15	36.20	7.95
32	97,136	98.71	95,884	0.00043	0.00108	0.00108	—	43.20	35.24	7.96
33	97,031	98.75	95,822	0.00005	0.00116	0.00116	—	42.24	34.28	7.96
34	96,918	98.76	95,715	0.00003	0.00125	0.00125	—	41.29	33.31	7.98
35	96,797	98.76	95,599	0.00002	0.00135	0.00135	—	40.34	32.35	7.99
36	96,666	98.76	95,471	—	0.00151	0.00148	0.00003	39.39	31.40	7.99
37	96,523	98.76	95,327	—	0.00186	0.00161	0.00025	38.45	30.44	8.01
38	96,368	98.74	95,150	—	0.00228	0.00176	0.00052	37.50	29.49	8.01
39	96,198	98.68	94,933	—	0.00268	0.00194	0.00074	36.57	28.55	8.02
40	96,011	98.61	94,678	—	0.00293	0.00214	0.00079	35.63	27.62	8.01
41	95,805	98.53	94,400	—	0.00299	0.00238	0.00061	34.71	26.70	8.01
42	95,577	98.47	94,118	—	0.00315	0.00263	0.00053	33.78	25.77	8.01
43	95,326	98.42	93,822	—	0.00365	0.00293	0.00072	32.87	24.85	8.02
44	95,047	98.35	93,480	—	0.00424	0.00324	0.00100	31.96	23.93	8.03
45	94,739	98.25	93,083	—	0.00461	0.00360	0.00102	31.05	23.03	8.02
46	94,398	98.15	92,654	—	0.00492	0.00397	0.00095	30.16	22.13	8.03
47	94,023	98.06	92,198	—	0.00549	0.00437	0.00112	29.27	21.23	8.04
48	93,612	97.95	91,692	—	0.00613	0.00475	0.00137	28.39	20.34	8.05
49	93,167	97.81	91,130	—	0.00642	0.00517	0.00125	27.52	19.45	8.07

表3 労働力生命表(つづき)

(1) 男(つづき)

年齢	静止人口	労働力		労働力への加入率	労働力からの離脱率			平均余命		平均余命と平均労働力余命との差
		率	数		すべての原因による	死亡による	引退による	一般	労働力	
$x$	$L_x$	$W_x(\%)$	$L_{wx}$	$A_x$	$\bar{q}_x^s$	$\bar{q}_x^d$	$\bar{q}_x^r$	$e_x$	$e_{wx}$	$e_x - e_{wx}$
50	92,685	97.69	90,545	—	0.00669	0.00561	0.00108	26.65	18.57	8.08
51	92,165	97.59	89,939	—	0.00743	0.00607	0.00136	25.80	17.69	8.11
52	91,605	97.45	89,271	—	0.00905	0.00656	0.00249	24.94	16.82	8.12
53	91,003	97.21	88,463	—	0.01193	0.00707	0.00486	24.10	15.95	8.15
54	90,358	96.73	87,408	—	0.01538	0.00763	0.00775	23.26	15.11	8.15
55	89,666	95.98	86,063	—	0.01785	0.00824	0.00962	22.43	14.32	8.11
56	88,924	95.05	84,527	—	0.01866	0.00891	0.00975	21.61	13.55	8.06
57	88,128	94.12	82,950	—	0.02222	0.00967	0.01255	20.79	12.79	8.00
58	87,270	92.94	81,106	—	0.03365	0.01049	0.02316	19.98	12.05	7.93
59	86,344	90.77	78,377	—	0.04768	0.01141	0.03627	19.18	11.37	7.81
60	85,341	87.46	74,640	—	0.05157	0.01248	0.03909	18.39	10.83	7.56
61	84,255	84.02	70,791	—	0.04683	0.01375	0.03308	17.61	10.37	7.24
62	83,077	81.22	67,476	—	0.04634	0.01520	0.03114	16.84	9.88	6.96
63	81,794	78.67	64,349	—	0.05313	0.01674	0.03638	16.08	9.34	6.74
64	80,399	75.79	60,930	—	0.05961	0.01869	0.04092	15.34	8.80	6.54
65	78,865	72.65	57,299	—	0.06703	0.02107	0.04596	14.61	8.30	6.31
66	77,164	69.28	53,458	—	0.07912	0.02360	0.05552	13.90	7.82	6.08
67	75,291	65.38	49,228	—	0.09296	0.02631	0.06665	13.22	7.39	5.83
68	73,242	60.96	44,652	—	0.10356	0.02928	0.07429	12.55	7.04	5.51
69	71,015	56.36	40,028	—	0.11082	0.03257	0.07825	11.91	6.75	5.16
70	68,608	51.88	35,592	—	0.11125	0.03627	0.07498	11.29	6.50	4.79
71	66,023	47.91	31,632	—	0.11110	0.04032	0.07078	10.69	6.25	4.44
72	63,263	44.45	28,118	—	0.12102	0.04451	0.07651	10.11	5.98	4.13
73	60,335	40.96	24,715	—	0.13324	0.04899	0.08425	9.55	5.69	3.86
74	57,249	37.42	21,422	—	0.13503	0.05417	0.08085	9.01	5.45	3.56
75	54,017	34.30	18,529	—	0.13728	0.05983	0.07745	8.50	5.22	3.28
76	50,655	31.56	15,986	—	0.14879	0.06566	0.08313	8.00	4.97	3.03
77	47,185	28.84	13,607	—	0.16343	0.07187	0.09156	7.53	4.71	2.82
78	43,631	26.09	11,383	—	0.17435	0.07881	0.09554	7.07	4.49	2.58
79	40,020	23.48	9,399	—	0.18049	0.08656	0.09392	6.63	4.31	2.32
80	36,385	21.17	7,702	—	0.18539	0.09511	0.09029	6.21	4.14	2.07
81	32,761	19.15	6,274	—	0.19384	0.10430	0.08954	5.82	3.96	1.86
82	29,184	17.33	5,058	—	0.20828	0.11395	0.09433	5.43	3.78	1.65
83	25,694	15.59	4,005	—	0.22618	0.12421	0.10197	5.07	3.61	1.46
84	22,331	13.88	3,099	—	0.24766	0.13511	0.11255	4.73	3.89	0.84
85~	91,056	10.14	9,237	—	—	—	—	4.40	3.40	1.00

表3 労働力生命表(つづき)

(2) 女

年齢	静止人口	労働力		労働力への加入率	労働力からの離脱率			平均余命		平均余命と労働力余命との差
		率	数		すべての原因による	死亡による	引退による	一般	労働力	
$x$	$L_x$	$W_x(\%)$	$L_{wx}$	$A_x$	$\bar{q}_x^s$	$\bar{q}_x^d$	$\bar{q}_x^r$	$e_x$	$e_{wx}$	$e_x - e_{wx}$
14	98,970	—	—	0.01996	—	—	—	—	—	—
15	98,952	2.00	1,975	0.02846	0.00022	0.00022	—	64.74	44.11	20.63
16	98,930	4.84	4,791	0.01508	0.00025	0.00025	—	63.75	43.12	20.63
17	98,905	6.35	6,282	0.24137	0.00028	0.00028	—	62.77	42.13	20.64
18	98,877	30.49	30,152	0.23368	0.00030	0.00030	—	61.79	41.14	20.65
19	98,847	53.87	53,249	0.11484	0.00032	0.00032	—	60.80	40.15	20.65
20	98,815	65.36	64,583	0.08867	0.00033	0.00033	—	59.82	39.17	20.65
21	98,782	74.23	73,323	0.01506	0.00035	0.00035	—	58.84	38.18	20.66
22	98,747	75.73	74,785	—	0.02141	0.00037	0.02104	57.86	37.19	20.67
23	98,710	74.14	73,184	—	0.09730	0.00038	0.09692	56.88	36.34	20.54
24	98,671	66.95	66,063	—	0.11543	0.00038	0.11505	55.90	35.62	20.28
25	98,631	59.25	58,438	—	0.11623	0.00041	0.11582	54.93	34.89	20.04
26	98,588	52.39	51,645	—	0.08502	0.00043	0.08459	53.95	34.16	19.79
27	98,544	47.95	47,255	—	0.05012	0.00047	0.04965	52.97	33.43	19.54
28	98,497	45.57	44,886	—	0.02687	0.00049	0.02638	52.00	32.70	19.30
29	98,448	44.37	43,680	0.00067	0.00053	0.00053	—	51.02	31.96	19.06
30	98,396	44.44	43,724	0.00752	0.00057	0.00057	—	50.05	31.22	18.83
31	98,340	45.19	44,439	0.01368	0.00059	0.00059	—	49.08	30.47	18.61
32	98,282	46.56	45,758	0.01501	0.00064	0.00064	—	48.10	29.72	18.38
33	98,219	48.06	47,204	0.01613	0.00067	0.00067	—	47.13	28.97	18.16
34	98,153	49.67	48,756	0.02093	0.00073	0.00073	—	46.16	28.22	17.94
35	98,081	51.77	50,775	0.02087	0.00077	0.00077	—	45.20	27.46	17.74
36	98,005	53.86	52,783	0.01786	0.00085	0.00085	—	44.23	26.70	17.53
37	97,922	55.64	54,489	0.01692	0.00091	0.00091	—	43.26	25.93	17.33
38	97,833	57.34	56,096	0.01513	0.00098	0.00098	—	42.30	25.16	17.14
39	97,737	58.85	57,522	0.01486	0.00106	0.00106	—	41.34	24.39	16.95
40	97,633	60.34	58,913	0.00847	0.00117	0.00117	—	40.38	23.61	16.77
41	97,519	61.19	59,672	0.01009	0.00126	0.00126	—	39.43	22.84	16.59
42	97,396	62.20	60,580	0.00587	0.00139	0.00139	—	38.48	22.05	16.43
43	97,261	62.79	61,068	0.00196	0.00152	0.00152	—	37.53	21.27	16.26
44	97,113	62.98	61,165	0.00063	0.00166	0.00166	—	36.58	20.48	16.10
45	96,952	63.05	61,125	—	0.00336	0.00181	0.00154	35.64	19.68	15.96
46	96,776	62.95	60,920	—	0.01133	0.00200	0.00934	34.70	18.82	15.88
47	96,582	62.36	20,230	—	0.00785	0.00217	0.00568	33.76	17.95	15.81
48	96,372	62.01	59,757	—	0.01249	0.00236	0.01013	32.83	17.12	15.71
49	96,143	61.38	59,011	—	0.01547	0.00256	0.01291	31.91	16.29	15.62



表3 労働力生命表(つづき)

(2) 女(つづき)

年齢	静止人口	労働力		労働力への加入率	労働力からの離脱率			平均余命		平均余命と平均労働力余命との差
		率	数		すべての原因による	死亡による	引退による	一般	労働力	
$x$	$L_x$	$W_x(\%)$	$L_{wx}$	$A_x$	$\bar{q}_x^*$	$\bar{q}_x^d$	$\bar{q}_x^r$	$e_x$	$e_{wx}$	$e_x - e_{wx}$
50	95,895	60.58	58,098	—	0.01762	0.00278	0.01484	30.98	15.51	15.47
51	95,626	59.68	57,074	—	0.01652	0.00302	0.01350	30.07	14.76	15.31
52	95,335	58.88	56,131	—	0.01898	0.00328	0.01571	29.15	14.01	15.14
53	95,020	57.95	55,065	—	0.02372	0.00354	0.02018	28.24	13.26	14.98
54	94,680	56.78	53,759	—	0.04259	0.00382	0.03877	27.34	12.53	14.81
55	94,311	54.57	51,469	—	0.03985	0.00414	0.03570	26.44	11.94	14.50
56	93,913	52.62	49,418	—	0.03973	0.00452	0.03521	25.55	11.43	14.12
57	93,481	50.76	47,455	—	0.04967	0.00490	0.04476	24.66	10.89	13.77
58	93,012	48.49	45,098	—	0.04546	0.00538	0.04007	23.77	10.37	13.40
59	92,501	46.54	43,048	—	0.07265	0.00582	0.06683	22.90	9.86	13.04
60	91,944	43.42	39,921	—	0.06525	0.00644	0.05881	22.03	9.44	12.59
61	91,334	40.86	37,316	—	0.05703	0.00712	0.04990	21.16	9.11	12.05
62	90,667	38.81	35,188	—	0.06721	0.00784	0.05937	20.31	8.67	11.64
63	89,934	36.50	32,823	—	0.07258	0.00863	0.06395	19.46	8.21	11.25
64	89,132	34.15	30,441	—	0.08695	0.00961	0.07734	18.62	7.79	10.83
65	88,241	31.50	27,794	—	0.08365	0.01098	0.07268	17.79	7.42	10.37
66	87,236	29.20	25,469	—	0.09265	0.01246	0.08020	16.98	7.07	9.91
67	86,104	26.84	23,109	—	0.12268	0.01395	0.10873	16.18	6.70	9.48
68	84,834	23.90	20,274	—	0.11313	0.01590	0.09722	15.40	6.44	8.96
69	83,416	21.56	17,981	—	0.13639	0.01778	0.11861	14.64	6.24	8.40
70	81,839	18.97	15,528	—	0.13080	0.02017	0.11064	13.90	6.05	7.85
71	80,092	16.85	13,497	—	0.12430	0.02286	0.10144	13.17	5.91	7.26
72	78,163	15.12	11,819	—	0.13590	0.02562	0.11029	12.46	5.71	6.75
73	76,044	13.43	10,213	—	0.15217	0.02861	0.12356	11.78	5.49	6.29
74	73,725	11.74	8,659	—	0.13138	0.03258	0.09879	11.11	5.33	5.78
75	71,198	10.56	7,521	—	0.14922	0.03630	0.11292	10.47	5.14	5.33
76	68,459	9.35	6,399	—	0.17573	0.04023	0.13551	9.84	4.90	4.94
77	65,505	8.05	5,274	—	0.15312	0.04578	0.10734	9.24	4.75	4.49
78	62,336	7.17	4,467	—	0.16987	0.05097	0.11890	8.66	4.60	4.06
79	58,958	6.29	3,708	—	0.19401	0.05650	0.13751	8.09	4.39	3.70
80	55,381	5.40	2,989	—	0.17903	0.06399	0.11504	7.56	4.26	3.30
81	51,621	4.75	2,454	—	0.19279	0.07133	0.12147	7.04	4.14	2.90
82	47,701	4.15	1,981	—	0.19246	0.08014	0.11232	6.55	3.97	2.58
83	43,651	3.66	1,599	—	0.24405	0.08748	0.15656	6.07	3.81	2.26
84	39,508	3.06	1,209	—	0.21998	0.09965	0.12033	5.62	4.11	1.51
85~	194,392	2.07	4,017	—	—	—	—	5.20	3.73	1.47

歳および25～29歳で引退し、45～49歳以降再度引退が始まる。よってすべての原因による離脱率をみると、20～24歳から25～29歳で高率となり、その後減少して30～34歳から35～39歳で底を形成し、再び加齢とともに増加する。

女子の平均労働力余命では、15歳時44.11年である。これは男子と比べて7.54年の差であり、一般の平均余命との差では20.63年と大きな差となっている。

つぎに、図2によって各歳別に労働力への加入率をみると、男子についてはほぼ3つの山がみられる。第1は、15歳時におけるもので僅かであるが山を形成しており、これは中学卒業時期に一致する。つぎの第2の山は、17～18歳にかけて高率を示し、高校卒業時期、第3の山は、22歳で大学卒業時期である。女子についても同じように3つの山を形成するが、第1・第2の中学・高校卒業時期は男子と同じであるが、第3の山は、男子の大学卒業時期には現われず30歳以降に増加し、34歳前後でピークを形成する。さらに、第1の山では、女子の方が男子より加入率が低く、第2の山では、逆に女子の方が男子より加入率が高い。これは、男女の進学率の違いによるものである。また、女子の場合は、加齢にともない結婚、出産、育児など女子特有のライフ・ステージの変化が、20歳を過ぎてから男女の差となって現われたものである。

図2 労働力への加入率 ( $A_x$ ) : 昭和55年

